看護部だより

ナースキャップ No.22

看護研究について

看護になぜ研究は必要か

高橋俊子先生

当院看護部は、毎年看護研究発表会を開催しています。院内発表から東海北陸看護学会、全国自治体病院学会等にも発表しています。研究に取り組むに当たり、聖隷クリストファー看護短期大学部元教授の高橋俊子先生に、指導を受けるようになり十余年が経過します。忙しい現場においてなぜ研究が必要なのか??このような素朴な疑問にも高橋先生は答えて下さいます。『看護師は看護の対象者に、良い看護を提供するために研究する必要があります。研究は日々実践している中で疑問に思う事、気付いた事からテーマが出ます。』研究に取り掛かる前に、文献の検索方法からテーマの絞込み、研究論文のまとめ方に至るまで講義をして頂きその後、研究が完成するまで継続的に指導して頂いています。研究のポイントはまず研究目的を明らかにするために文献を読む、目的に合った研究方法を選択する事、得られた結果を十分に読み取り結果に基づき解釈・推論をする。最後に結論で自分たちが知りたかった事で分かった事を書き上げる。忙しい現場で研究のために時間を割くのは大変なことです。しかし、研究することで専門的な知識を広げ科学的に裏付けられた確かな看護が実践できるように頑張っています。

看護研究委員と高橋先生

ナーシングラダー

（看護師現任教育）

教育師長　杉山久美子

看護部の現任教育は経験別教育を行ってきましたが、スタッフ個々の成長に合わせた教育が全体のレベルアップにつながると考え、平成20年度から5段階別教育に変更しました。

目標は、1年目ナースが所属する初心者・新人コースは、先輩看護師の指導を受けながら看護実践ができる。一人前ナースは、日々のリーダーと受け持ち患者への適切な看護が提供できる。中堅ナースはチームリーダーとしての役割を果たしながら、受け持ち看護師としてのモデルになることができる。達人ナースは、チーム間の調整や部署でのリーダーとしての役割を果たし、看護の実践には、こだわりを持ち、患者さんの満足につながることができる。看護を実践する中で、看護師個々が経験したことや感じたことを語り合い看護の感性を高める教育を行っていきたいと思います。

輝きナース パート7

スポーツでいつまでも若々しく

外来第一　木又享子

冬は、天然雪が沢山あるスノーリゾートで目の前の大自然を肌で感じ真っ白な雪と戯れるのが好きです。

美しい景色の中、雪煙を上げながら山の頂上からかっこ良く滑走！は、出来なくても我流で転んでは起き上がり、子供や孫にかっこ悪いと笑われながらも、何とか滑り降りてくる（スキー歴15年、何故か上達しない…）。スキーの後は冷えた体を温泉で温め、みんなで鍋を囲んでのんびり、これぞ雪国における醍醐味だからやめられない。子供や孫とスキーを楽しみ、心身ともにリフレッシュし、若さを保ちたいと思う。

掛川市立総合病院
〒436-8502 掛川市杉谷南一丁目1番地の1
TEL (0537)22-6211 FAX (0537)24-2539